

平成山鉾

今年34年目を迎える平成山鉾は、平成元年の『福岡よかトピア』に10mの山鉾を造って出演したことをきっかけに「高さ10mの山鉾を復活させよう」との機運が高まり、平成2年に完成致しました。

日田祇園の曳山行事がユネスコ無形文化遺産に登録された際の記念イベントとして、ともに登録された九州の4団体と福岡市役所周辺での巡行に参加し、ラグビーワールドカップが大分で開催された際には、大分県立美術館に約30日間展示し、日田祇園のPRを行いました。



日田祇園囃子

日田祇園において神事の風情を現しかつ威勢をつけるためのお囃子で、笛、太鼓、三味線の音色で山鉾巡行に華を添えます。

曲目は江戸から昭和初期にかけて流行した端唄・俗曲を、山鉾の囃子にアレンジしており、山鉾巡行の為に日田の庶民が生み出した素朴なお囃子です。

現在は保存会が結成されており、古くから伝わる伝統の音色を継承しています。



日田祇園の歴史・概要

日田における祇園信仰は、およそ500年前に悪疫鎮護の願いを込めて始められ、正徳4年(1714年)には、現在のような山鉾が奉納されていました

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。豆田八阪神社・隈八坂神社・竹田若宮神社の三社の祭礼行事で、平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これらの山鉾は、全て町内の皆さんの手作りによるものです。毎年、歌舞伎の一場面を題材とした飾りつけが行われ、日田唯一の人形師「長嶋静雄さん」の手により、各山鉾に乗せられた人形に命が吹き込まれます。

平成28年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

祭礼への流れ

7月初旬

■小屋入り行事

作業始めとして祭に参加する全員で御神酒上げを行います。

■色あげ作業

解体された山鉾の館等の色を塗り直し、金紙を使った欄干の金具等を貼り替えます。

■パイパイ染め

山鉾の高欄の両側に挿すパイパイを、塗料で染め乾かします。

2週間前

■車揚げ

木製の山鉾の車輪は、普段池の水の中に沈められており、山鉾の組立前に池から引き上げます。

■山鉾組立(飾り付け)

色揚げされた館や、車輪等が組み立てられ、パイパイや手作りの松ノ木、牡丹等を飾ります。

1週間前

■御輿洗い神事

■人形乗せ

各町内に振り分けられた華題の人形を、人形師の指図の元に山鉾に乗せます。

■山番

各山鉾の納所で夜警が始まります。

■流れ曳き

山鉾のバランスや車の調子を見るための試運転を行います。

■集団顔見世

流れ曳きの日に、豆田4基と隈・竹田4基に平成山鉾を加えた計9基の山鉾がJR日田駅前へ集結します。

当日

■祇園祭典(土日2日間)

豆田地区、隈・竹田地区の各地区ごとに山鉾が巡行されます。

翌日

■山鉾崩し

各町ごとに山鉾の解体や祇園山鉾会館への収納等の作業を行います。

■仕舞い勘定

掛け振り帳で購入した物の支払いや、山鉾に上がった清酒等が清算されます。

■藪入り

打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭の行事が終わったとされます。